

水産業×福祉

牡蠣養殖業者様

岡山県備前市日生町

社会福祉法人旭川莊 いんべ通園センター

岡山県備前市伊部974-12



地元に根付いた地場産業をサポート！ 開所当時からの基盤業務として牡蠣の養殖を支援

いんべ通園センターは、2002年に開所した事業所で主に身体・知的障害者を支援しています。

「地場産業をサポート」岡山県東部に位置する地域は牡蠣の養殖が盛んで、日生（ひなせ）、虫明（むしあけ）、牛窓（うしまど）といった名産地があります。

牡蠣の養殖で使うのが「バンガラ」と言われる、牡蠣の幼生をホタテ貝に吸着させて育てるための土台です。これは、各養殖業者様によって仕様が微妙に異なりますが、基本的には、針金を使って、ホタテ貝・プラスチックのスペーサーを

交互に組みあわせていくものです。

養殖を開始するのは、例年7月頃から始まります。その使い始める時期にあわせて、1年間、このバンガラを作り続けます。いんべ通園センターでは、現在牛窓のカキ養殖業者グループやその他個人の業者から依頼を受け、年間にこれを約13,000セット作り上げ、工賃の原資としています。

バンガラは約50cm×30cmぐらいとなり、大きくかさばるので、毎週250セットぐらいをくみ上げては、軽トラで運搬して納品しています。

連携の概要



① 地場産業との連携

② 地元の支援学校の実習

このバンガラづくりの作業は、もともと、牡蠣の養殖が盛んな当該地域における地場産業であり、開所当時からの基盤業務として取り組んでいます。バンガラづくり専用の治具を作り、針金に貝殻とスペーサーを均等に通していくように、また個人の体格にあわせて角度を変えられるよう工夫を施しています。今はバンガラづくりがメイン業務ですが、牡蠣の養殖であれば、牡蠣のむき身や清掃といった他業務でも、業務請負や施設外就労の可能性を秘めているものと思われます。

また、このバンガラづくりは地場産業であり、近隣の他事業所も取り組んでいる作業であることから、地元の支援学校の実習でも取り組んでいます。丁寧さを要する仕事は、障害特性にあった業務であり、特に自閉傾向の強い方には相性のよい作業となっています。事業所に入る前から訓練できる、というつながりがあります。

連携の課題とその対応

海から離れた場所での作業

これらの作業は通常海辺で実施されることが多いのですが、事業所は山のふもとにあるため、その題材を運搬しなければなりません。

運搬には時間と燃料代といったコストが発生しますし、また、大量のホタテ貝はスペースも相当量必要となるため、工夫が必要です。

外国人労働者との共生

近年では、牡蠣養殖業において人手不足から、外国人実習生を受け入れる流れがあります。以前は繁忙期中心でしたが、年間を通じて仕事をするようになりました。その実習生への仕事提供の観点から、障害福祉への発注量も減少傾向にあります。他労働力との共生が課題となります。



バンガラ



バンガラを組み上げる治具



納品時の様子

今後の展望

牡蠣養殖業者様

バンガラは養殖の元となる牡蠣の幼生を集めるのに不可欠なものです。針金に通すホタテ貝の数は決まっているのですが、間違いがなく、丁寧に仕事をしてくれているので、とても満足しています。仕事をお願いするにあたり、特に障がい者施設だからと意識していることはありません。お互いに良い関係を継続できたらと思います。

社会福祉法人旭川莊
いんべ通園センター 長壽氏

カシャン、カシャン…作業室に軽快な音が響いています。利用者の真剣な面持ちともに、独特の雰囲気がそこにはあります。集中することや、他の作業が得意でないが、バンガラ作業はできるという人もいます。障害のある人の特性とバンガラ作業はとても相性が良いと感じています。いろいろな労働にまつわる情勢はありますが、今後も利用者の可能性を引き出すこの仕事を継続してきたいと思います。

今後は事業承継も視野に



地場産業に開設当初から取り組んでおられます、牡蠣の養殖業自体、後継者不足の問題に直面しており、今も廃業に至っている養殖業者は増えています。地域に根差した障害福祉事業所は、地域福祉だけでなく地場産業の担い手としても役割を期待されてくると思われます。